

ドイツ遠征2005まとめ

内容

【ドイツ遠征を振り返って】担当：勝部諒

僕は、8月17日から26日までの10日間ドイツ遠征に行ってきました。はじめは成田空港でトランプや暇つぶしに話したりとリラックスしていましたが、しかしミラノ国際空港でトイレに行くとき、もしかしたらお金を払わなくちゃいけないと・・・もうそういうところから日本と違うなぁと思いました。そして長時間、飛行機で移動し、やっとドイツ、デュッセルドルフ空港に着きました。それからは、迎えに来てくれた人たちの車に乗り、ヒルデンのクラブハウスに行きました。そこでは多くの人たちがいてビックリしました。中に入り緊張しながらホームステイ先の発表を待っていました。発表された人から順にクラブハウスから出て行きました。僕の場合、車の中で何回か英語で話しかけられたけれど、うまく答えることができませんでした。

2日目から5日目は午前中ホームステイ先で過ごしました。午後はゲームとなっていました。その試合はまだ疲れが取れていなかったのか、みんな思うように体が動いていませんでした。僕は膝を怪我していたので見ることしかできなかったのだけれど、本場のドイツでサッカーをして、技術など多くのことを学びました。試合の後はバーベキューがあり、ソーセージやお肉など美味しいものをたくさん食べました。ドイツではとても陽が長いので、遅くまでサッカーをして遊んでいました。遊びでやっているのにドイツの人たちはとても熱く、かなり楽しかったです。最後にみんなで歌った「そこにしか咲かない花」うまく歌えたかどうかは別として、とにかく大きな声で歌えたと思います。

6日目からはホームステイ先からホテルへと移動し、いつもの慣れた仲間達と過ごしました。せっかくホームステイ先の人達と仲良くなれたのに・・・と思った人もいたでしょうね。

7日目、この日は朝早くから出発し、コブレンツ、ライン河下りなど観光行きました。まず最初は電車で移動し、その後ライン河下りでした。天気が曇りで寒かったけれど、崖の上の方にはたくさんのお城がありました。その後はコブレンツで昼食を食べ、ケルン大聖堂に行きました。とても大きく迫力があり、とてもビックリしました。最初見たときは、あまりにも大きく見とれてしまいました。階段が一番上まで行くにはとても大変でした。幅が狭く、段数がとてもあるので、いつ着くのかわからないくらいでした。上で景色を見た後、下りる時スリに合いそうだった人がいて、少し怖いなぁと思いました。夕食は中華料理で挨拶を直樹がすることになっていたのですが、なかなか言ってくれませんでした。ご飯は五目そばとチャーハンのどちらかにを選んで食べました。とても美味しかったです。

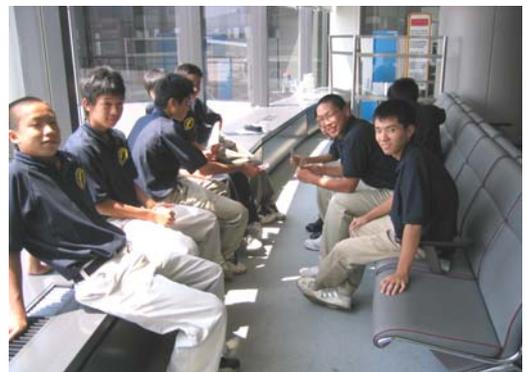
8日目は買い物でした。時間は約4時間くらいと限られた時間でしたが、自分達の気に入った物やお土産のドイツの物などを買うことができたと思います。あまり買えなかった人もいたようですが・・・。その夜は帰る準備でスーツケースが重過ぎないように詰めていきました。思ったよりも時間がかなり大変でした。

帰る当日の朝はとても寒く、最後まで夏とは思えない天気でした。飛行機はまた乗り換えだったので最初にミラノ国際空港に行きました。ミラノでの休憩はなく、すぐに別の飛行機に乗らなければならず忙しかった。この飛行機では、時差ぼけにならないように意識してましたが、難しくうまく寝れませんでした。成田空港に着いた時はとりあえずホッとしました。

“ああ、やっと日本に着いたな”と思った。それからはバスで山梨まで移動し、すぐ、次の日から高円宮杯があるから練習でした。最初から最後まで忙しかったけれどドイツで経験したことは、これからの生活に絶対生かされると思います。そんな経験をさせてくれた皆川さん、そしてお父さんお母さん、みんなありがとうございました。



ドイツ遠征説明会 竜王商工会議所会議室にて



成田空港で飛行機の時間を待っているところ



ヒルデンノルトとの試合前のアップ



バーベキューでの歌の一場面

【ドイツ遠征を振り返って】キャプテン：的場拓耶

僕は、出発日の朝、少し時間に遅れてしまいました。親にあいさつをして、バスの乗りました。まだちょっと寝ぼけていたので、親に“行ってきます”ができませんでした。親が少し見えなくなってから、少し淋しくなりました。バスの中では、まだ朝早かったので、みんなの話声が聞こえませんでした。でも一回休憩した後は、だんだんとうるさく盛り上がってきました。僕は成田に着くまでほとんど寝ていたので成田に着くのが早く感じました。空港の中はとても広くしかも大勢の人で迷うかと思いました。飛行機に乗るまでの待ち時間が、すごくドキドキしていたかも……。飛行機が離陸する瞬間の皆の声を聞いた時は、かなり面白かった。12時間も機内にいて、することもなく結構大変でした。僕の隣りは、一般客だったので、竜麻と二人で静かにしていました（笑）。行きは12時間は長かったです。その後ミラノで乗り換えをしさらに2時間乗りました。計14時間乗っていたと思うとしんどかったです。ドイツの空港に着くと、もうヒルデンの人たちが待っていました。皆川さんとヒルデンの人たちが話しているのを見て、“皆川さんは、すごいなあ”と思いました。皆川さん、小さいなあ”とも思いました（笑）。ヒルデンのホームグラウンドに行くと、ホームステイ先の人達がいて、まず思ったのが、“デカッ……”みんな大きい人ばかりでした。誰がどこへ行くか楽しみで仕方ありませんでした。僕は一人でヒルデンのチームのトーマス君の家へのホームステイでしたが、結構良かったです。その日はもう夜遅かったので、少しご飯を食べてすぐ寝てしまいました。

次の日は試合まで時間があったので近くの街に出かけました。僕は常に辞書を持って行ってヒルデンのみんなと会話をしました。街をゆっくり歩きながら、いろんなところへ行きました。そして家に帰り、試合に出かけました。試合の内容は良いとは言えませんでした。僕は、試合に負けるのが本当に嫌でした。5試合やり2勝3敗と負け越してしまい、本当に悔しかったです。でも日本に居ては味わえない体験がマジでできたと思います。まず高さで勝てない分、どこで勝てるかとか、ドイツの人たちは、足が長くて、普通にドリブルしていると取られてしまい……。特に1試合目は苦勞しました。僕は学んだことがいっぱい有り、試合中、良いプレーを見たりすると、その時に実際にやってみたりしました。自分で良かったと思うものもあれば、自分には無理だと感じる物もありました。1試合目はfの選手はみんなビビっているのが見てわかりましたけど、3から5試合目では、みんな身体を張っていて、変わっていたのがわかり、とてもよくなったと思いました。でも日本人は小さいですね。勝部、竜麻でさえ、少し小さく見えたのでちょっと笑っていました。ホームステイ先に戻り、すぐ食事をして、僕はトーマスの部屋に居ました。僕の寝室です。そこではテレビを見たり（何しゃべっているのか全然わからないけど……）、トーマスと僕がお土産で持ってきただるま落しで遊んだりしていました。それから街にはいろんな人に行きました。街の行きかたはもう覚えてしまいました。最初、ホームステイが自分ひとりで大丈夫かなあ……ってすごく不安で、向こうの人に心配かけたりしないかなあ、いろんなことを考えていたけど、いざ泊ってみると、本当に温かく迎えてくれて、その瞬間から、自分の心の中で“もう大丈夫だ！”と思い、それから自分から話しかけたり、話しかけられたり、会話をする回数も増えていきました。

ホームステイ先の料理が、マジうまくて、日本食が欲しいとは全然思いませんでした。ずーっとドイツ料理でも良いなーと思いつつ、いっぱい食べました。本当に美味しかったです。

ホームステイ最後の日に、学校へ行きました。周りの生徒にもすごくじろじろ見られました。2時間授業をして、1時間目は、……。よくわかりませんでした（笑）。2時間目は数学で、僕でもできるかなあーと見ていたら全く日本のやり方と違ってました。1問目の答えを見て、なんだこりゃ！？とちょっと焦ってしまいました。その後も問題を解いてみましたが、1問も正解しませんでした（ガックリ）。でも学校に行けたのはとてもよかったです。お別れの時間が近づいたときには、本当に淋しくなってきた、ウルウルときました。そこは我慢しました。その日は試合だったのでグラウンドまで送ってもらい試合を見てくれました。その試合に勝つことができ、しかも僕が点を入れて良かったです。最後に点を入れることができ最高でした。試合が終わりホテルまで送ってくれました。ホテルに着き、別れの時が来て、本当に別れるのが嫌でした。（今も思い出しても悲しいです）ホテルでも一人部屋でちょっぴり淋しくなりました。だからずーっと近い人の部屋にいました。ホテルの夕食は外食でした。美味しかったです。ドイツの水は炭酸水で、最初の内は全然飲めませんでした。ホームステイ先で、炭酸水がいっぱい出たので、僕は飲み慣れました。

ホテルになってから日本語で喋れるのでなんかすごく幸せでした（笑）。今度はチームでの行動で、みんなの表情は、いい顔をしていました。観光でケルン大聖堂などいろんな所に行きました。何もかもが初めて見るものだったのでしっかり目に焼き付けてきました。自由行動の時は何を買おうか迷いました。電車で皆川さんが居なくても乗ることができました。余裕だったけど……。観光の時間は、忙しかったけどマジで楽しかったです。

日本へ帰る日の朝、食事をした後、近くのスーパーに行き、最後の買い物をしました。その後支度をして空港に行き、ヒルデンの監督ユアーさんとお別れをしました。

帰りの飛行機はデュッセルドルフ空港からイタリア・ミラノ国際空港まで2時間くらいで、その間僕は、爆睡でした。だから着くのが早く感じました。ミラノで乗り換えて日本へ。また12時間乗ると思ったら嫌でしたが、帰りはなぜか行きよりも早く感じました。だから全然楽でした。成田に着き、バスの乗りましたが、なぜかまだドイツにいる感覚がしました。しかし成田から外に出た瞬間、はんばなく暑くて、しかも蒸し蒸し、日本の暑さだと現実に戻りました。バスに乗って途中のサービスエリアで牛丼を食べました。日本食も美味しかったあー！バスの中ではまだ日本にいる感覚が全然ありませんでした。山梨に入り、いつも通る道路が見え始め、やっと日本にいたんだなあ実感しました。ドラゴンパークに着き、すぐに家に帰り、急いで練習に行きました。自転車だったので暑くて大変でした。練習をして、高円宮杯に備えました。9日間を振り返って、最初は不安などがたくさんありました。……が、ホームステイ先の家で自分から話しかけてから、不安などが全部どこかに行き、もう楽しくて楽しくてたまりませんでした。時間が過ぎていくのも本当に早かったです。試合も日本じゃ体験できないことがいっぱいあり、自分がどこまで通用するか……。それもわかったような気がします。こんなに良い体験を中学の時からでき幸せだと感じました。でもこんなドイツ遠征ができたのは、皆川さんをはじめお世話してくれた方々、そして両親のおかげです。本当にみんなに感謝です。一生忘れることのない思い出となりました。ありがとうございました。



さて、ドイツ遠征も5回目となりました。ホームステイをし、良い環境の中でドイツの文化を体験できることは、選手たちにとってこの上ない体験だと考え、スタートしたドイツ遠征。初回より2回目・・・4回目より5回目と前回のことを学習、反省しながら、精一杯のことが選手たちに提供できるように準備をしてきました。

今回はドイツの夏期休暇日程の関係で、7月に行っていたのを、8月のお盆過ぎに設定をいたしました。夏休みの後半となることと、最終週に高円宮杯の二次リーグが控えているということで当初、日程についてどうするか？ 非常に悩んだわけですが、現地の受け入れチームが7月では夏休み休暇中で準備ができないということで、当チームの日程は非常に厳しいわけですがこの時期に決定をいたしました。帰国して翌日が高円宮杯の公式戦という事で、帰国後一時間後には、グラウンドに集合して練習をしなければならないという状況でしたが、その状況下でも、しっかりモチベーションを保ち、試合を行なってくれたことは、本当に選手たちに感謝しなければなりません。またそんな状況下でも、泣き言を言わずに目の前の現実をしっかり取り組めたのは、今回のドイツ遠征の体験が生きているのではないかと確信しております。旅行のコーディネーターもおらず、ホームステイ先では楽しくなるのも、充実するのも自分の取り組み次第と言う環境の中で、選手それぞれが努力をし、ドイツ人とのコミュニケーションを克服し、ドイツの食文化を克服し、ドイツ人とのゲームでのひるまずに戦っていった姿勢・・・全てのことが、高円宮杯での苦境でも持ちこたえることができたのだと思っております。

滞在中の観光は今回はドイツ人には父なる河、ライン河の船下りをメインに、お城などを見たり、恒例のケルン大聖堂、デュッセルドルフ市の街散策をしたりとかなり選手たちには、時間に追われハードだったかもしれませんが、でもみんなの行動力と好奇心の旺盛さがそのハードさを感じさせないほどだったと思います。選手たちのおかげで私も今回、初めて船下りという貴重な体験をさせてもらいました。本当に楽しかったです。

サッカーの試合の方は、2勝1分3敗という戦績でした。対戦する相手は、B1というカテゴリーで、年齢で言うと15歳16歳の選手たちです。fの選手たちより1歳年上の選手たちと戦ってきたわけですが、ビックリしたのは、今回もホストチームとしてお世話になったユアー氏が率いるVfb03ヒルデンのすばらしさでした。昨年までは違っても、選手の質もすごく向上していて、ただ蹴るだけ、高さだけといったチームが、こんなにもなるのか！と、改めてユアー氏の学習力、指導力に感心しました。ユアーもいってくれました。shinのチームと戦うことによって、小さくてもテクニックがあれば、ドイツ人相手にしっかり戦えるし、負けないで対応できること。夏にshinのチームと戦うことは非常に刺激になっていた・・・とありがたいことをおっしゃってくれました。今度は私が学習することになりました。今年のチームカラー「個人の力がチームに」ということで、どんどん前に向かってゴールへ向かって勝負していこう！ということをごドイツでも選手たちは実行してくれました。1, 2戦はドイツ人の大きさにほとんどの選手がひるんでいたようでしたが、大敗した3戦目の後半くらいから選手たちも変わって来たと思います。4戦目の試合では特に相手は大きくスピードある選手たちでしたが、スタートから身体をはってボールを奪いに行く姿勢や、前を向いてゴールへ果敢に向かうシーンが何度も見られ、試合こそ負けてしまいましたが、選手たち自ら変えようとした内容だったと思います。また来年のために今度は我々がユアーのチームを倒す為に努力していかなければなりませんね。でも海外のドイツでも良いライバル、目標のチームがあるということは、なんか誇らしいし、嬉しく思います。それもみんな選手たちが頑張ってくれているからこそですね。

帰国後始まった高円宮杯、二次リーグは順調に突破したものの、負けを覚悟した準々決勝の葦崎SCとの戦いは、まさに選手たちがドイツ遠征で体験したことをゲーム中にプレーしてくれた結果だと思えます。最後まであきらめず、自分達が変わらなければ何も変わらない・・・ということをおの試合の後半、ベンチからの指示ではなく（ベンチとしては半ばあきらめていた（・・・すいません））、選手たちが自分らの力を信じて戦い抜いたことが、劇的な逆転につながったと思います。・・・感動しました。惜しくも決勝戦で敗退ということになりましたが、気持ちの入ったすごく良いゲームだったと思います。

今回の遠征に関わっていただきましたムラキエージェンシーの熊谷氏、現地の下田氏、三枝氏本当にありがとうございました。そして今回もホームステイから試合まで全てをお世話になりましたVfb03ヒルデンの皆様、そしてユアー監督、本当にありがとうございました。また来援も宜しく願いいたします。

そして最後となりましたが、遠征に送り出していただきました選手たちのお父さん、お母さんそして家族の皆様、皆様のご理解なくしてこの遠征は成り立ちません。本当に心より感謝申し上げます。

尚、私事の諸事情で、今回この「珍道中」の製作が大変遅くなってしまいました。楽しみにお待ちしていた皆様には本当にご迷惑をおかけいたしました。HPでもお叱りのお言葉をいただき、とにかく一日でも早く正月休み返上で作成いたしまして、やっとここに完成することとなりましたが、なにぶんにも私には何回やってもこういった編集、構成力そしてボギャブラーの欠如で、支離滅裂で見苦しい点が多々あるかと思えますが、どうかご勘弁を。

この「2005珍道中inドイツ」でも選手たちの現地での様子が伝わり、また選手たちには当時の記憶が想起させたら幸いです。では、このへんで。

フォルトゥナサッカークラブ
代表 皆川新一